

と見え、^{〔九八〕}同書郭子儀傳には此の次第を記して

廻紇赤心賣馬一萬匹、有司以國計不充、請市千疋、子儀以廻紇前後立功、不宜阻意、請自納一年俸物、充廻紇馬價、雖詔旨不允、內外稱之

と曰へり。^{〔九九〕}

此の如く此の可汗の時代に於ては回鶻は其の武力を恃みて常に唐を凌辱し、一方には乾元以來頻年の馬市により、既に歲賜を以て苦める唐の財政を益々困乏の淵に陥らしめしが、唐は此等の凌辱と欲求とに對して、何等抗爭の手段を取る能はず、北邊の武備を總攬したる郭子儀すら、己の俸を納れて之と怨を結ぶを避けんとする態度に出づるの外無かりしが如し、但し回鶻のかゝる横暴が、唐の上下を憤激せしめたるは勿論にして、代宗も亦密かに之に對して武備を修めんとしたるが如く、舊唐書張光晟傳に

大曆末、遷單于都護兼御史中丞振武軍使、代宗密謂之曰、北蕃縱橫日久、當思所禦之計、光晟既受命至鎮、威令甚行

と曰へり、然れども要するに上述の形勢は代宗の一代を通じて繼續し、唐は進みて積極的の方策を講ずる能はざりしが、大曆十四年五月代宗死し、德宗代り立つに及び、回鶻の唐に對する壓迫は更に加はり、遂に可汗は其の國を擧げて南下し、唐を侵さんとするに至れり、即ち舊唐書廻紇傳には

德宗初即位、使中官梁文秀、告哀於廻紇、且修舊好、可汗移地健不爲禮、而九姓胡素屬於廻紇者、又陳中國便利、以誘其心、可汗乃舉國南下、將乘我喪